

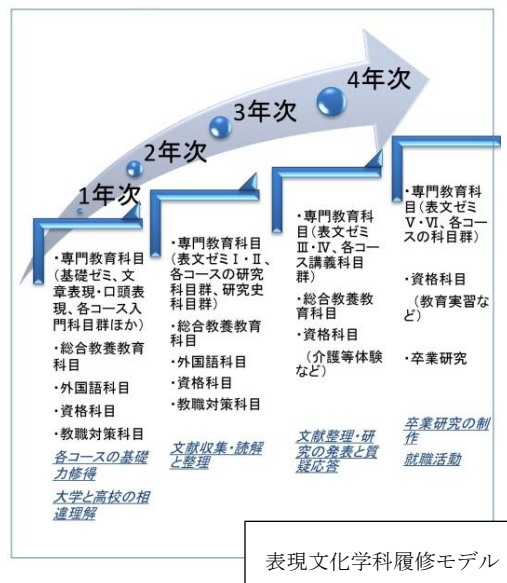
人文科学とは？

質の異なる問題

私たちの周囲にはさまざまな問題が展開しています。なかには、その大切さに私たちが気づかないまま、すぎていくものさえあります。気づかないものについてはさておき、私たちの視野に入るものに限って話をしますと、その中でも、解決しやすい問題と解決が困難なものがあります。例えば、欲しいものがあるのだが、お金がなくて買えない。この場合は、お金を手に入れるためにアルバイトをする。小遣いをもらうとか、要は金銭がこれを解決します。空腹の場合はどうすればよいのか。この場合も、食べ物が解決するでしょう。要は物質の獲得によって、解決できる問題です。一方、内面的な場合を考えてみましょう。「自分は何がしたくてここにいるのか？」「卒業後、社会にでて役に立つために入学したのだが、なにをすればよいのか？」。こうした内面的な問題は、こたえることが難しいものです。要は人間の感情とか価値観とか、目に見えない領域の問題です。自分個人の問題としても難しいのに、周囲の人達も同じ内面をもち、交差し交流することで人間関係が形成されています。そして、しばしば、価値観や感性のくい違いから、衝突が生じます。実に、解決が困難です。隣人との衝突にも、国家間の衝突にもこの同じ構図があるといえましょう。この構図の要素は価値観と個性とのくい違いで、双方ともに自分が正しいとしか思えない位置に立っていることです。

人文科学は、こうした解決しがたい問題を理解する視点を提示する学問です。歴史認識を基本に据え、歴史に残された資料や、文学作品、言語、芸術作品などを取り上げて、それらが生み出された背後の世界的状況と、変化の中から、歴史変化の原理を探ります。

いわば、時間の流れという縦軸です。それに加えて、わたしたちを多様な文化が幾重も取り巻いています。この世界的な広がりのある文化が、いはば、広がりとしての横軸です。人



文科学は、解決の困難な問題の特質を明瞭にし、解決の手立てを見つけるために、歴史という縦軸と文化という横軸との間に、問題をとらえるための、座標を探し提供する役割があります。

解決時間の長・短

物質によって解決できる問題と、考え方によって解決をはかる問題について、別の面から説明しましょう。解決手段として物質が優先されるものには、時間的余裕のあまりない問題が多いようです。ライフラインに障害が発生した場合などがそうですね。安全な生活、豊かな生活、こうした生活の維持のために、物質が必要で、欠乏した場合、それを補充することは緊急を要します。この緊急性にこたえる学問が絶対に必要です。しかし、一方、こうした物質がもたらす豊かさに反して、本当のゆたかさとはなにか、人間にとって、かけがえのないほんとうに大切なものはなにか、という、ながい時間のなかで変質しない、貴重な価値をじっくり考える学問も、必要なのです。この役割を担う学問が人文科学です。人文科学は歴史の軸と文化の軸の間に、座標を定めて考える視点をもとめ、根拠をもって、解決を図る考えを提示するのです。

表現文化学科、実践英語学科、総合歴史学科

人文科学部は上記の3学科で構成されています。日本や英米の文学作品、文化、ことばなど、そして、アジア、欧米の歴史、文化遺跡などを題材にして、変わるものとかかわらないものを明確にしようとするのです。

